

みちしるべ

人になれ 奉仕せよ

みずからのために道しるべを置き みずからのために標柱をたてよ (エレミヤ31:21)

聖句 : 今日、ダビデの町であなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシヤである。
(ルカによる福音書 2:11)

保育目標：0歳児	・クリスマスの雰囲気を感じる。冬の自然に触れる。
1歳児	・クリスマスの雰囲気を感じ、喜んで過ごす。
2歳児	・クリスマスの雰囲気を感じ、楽しみに待つ。
年少組	・クリスマスの喜びをみんなで祝う。
年中組	・クリスマスの話をみんなで聞き喜んで迎える。
年長組	・イエス様のご降誕を喜び合う。・受ける喜びを経験する。

散歩していると風景が少しずつ変わっていくことを感じる季節になりました。木々は赤や黄色、茶色等に変化し、草花も緑だけでなく、深緑、薄茶色、等言葉では表すことが出来ない、私たちが作り出す事が出来ない色合いで成長しています。また、空を見上げると同じ景色はなく、毎日違う空を子ども達と一緒に見て感じて共感できることは恵みです。

先日、イタリアのレッジョ Emilia 研修に行かせて頂きました。様々なことを学ばせて頂いただけでなく、幼児・乳児園施設見学もさせて頂きました。そこでは、こどもに「教える」のではなく、様々な経験を通して「気づき」、「学んでいく」そのプロセスを大切に、そして得た知識をコミュニケーションを取りながら他者と共有・交換し、それが学びに繋がりそして違う物の見方があることを経験し、表現していくことを大切にしています。お話を聞きながら、乳児クラスの子どものことを思い出しました。乳児園庭で、ペットボトルにドングリを1つずつ入れている0歳児。大・中・小色々ある形のドングリ。初めは小さい細目のドングリを1つずつ入っていました。次に手にした丸い少し大きめのドングリ。同じように入れようとしたら、入らず何回もボトルの口に押し付けていました。「あれ？何で入らないの？」と言った表情で、ボトルの口を見たり、ドングリをじっと見つめ色々角度を変えてなんとか入れようと試していました。傍から見るとボトルの口が小さくて大きいドングリが入らないだけですが、0歳児には分かりません。諦め、他のドングリを手にとりポトン。その時の表情は、「あれ？これは入った」といった表情のまま続けてドングリを入れていました。その子が経験したこと、「どうしてこのドングリは入らないのか」「どうしてこのドングリは入るのか」の答えは今では分からなくても、何回も経験していく中でいつか「気づき」学んでいくのでしょうか。その過程を私たちは見守り子ども達自身が学べるよう環境を設定していくことが役割であることを実感しました。また、私たち、大人が当たり前だと思っていること、例えば、先日の給食の果物に「梨」ができました。リンゴと見た目は同じなので、子ども達は「あっ、リンゴだよ！」と。食べて気づけたらと思いその場では何も言わず、食べた時の子どもの反応を見ていたのですが、最後までリンゴだと思って食べていました。大人はカットされていて見ただけで見分けられますし、食べればなおさらです。でも子どもは違いました。子どもにとっては当たり前ではなく、「未知の世界」で「知らない」ことばかり。これをきっかけに給食の時に、今日の給食で使われている食材を出してもらい、子ども達と一緒に「匂い」「感触」「視覚」「味覚」を楽しんでいます。子ども達が五感を通して感じたことが「ことば」で表現されます。子どもの表情を見たり、子ども達と会話をしていると、新たな発見があり私たち大人の物の見方も変わってきます。子どもにとって「間違いはない」。ここから新たな想像力が引き出されていきます。子どもの持っている可能性をこれからも大切にしていきたいと思えます。

園では、11月25日からアドベントに入ります。子ども達とイエス様のお誕生をお祝いするクリスマスを待ち望む期間です。私たち一人ひとりを創造し造られ命を与えて下さった神さま。そしてかけがえのない存在として私たち一人ひとりを愛してくれています。そのことを感じられる、アドベントでありますよう祈りつつ過ごしていきたいと思えます。

主任 松下 成美